

8

令和5年 8月号  
No.529

特集○これからのお教員研修

# 日本 教育

月刊



公益社団法人 日本教育会

Japan Education Corporation for the Public Interest

## 災害への想像力を 豊かに

防災士、株式会社スギタ代表取締役

杉田 佳之



創業85年の傘メーカー株式会社スギタを経営。特許傘や意匠を駆使した新しさや吉本無のカタチで、環境ゴミをまたの興業と一緒に取り組む。傘くす活動に取り組む。内閣府と一緒に、防災への取り組みも進めてきた。

「グッズ大賞」も受賞しました。交通安全だけでなく、災害時にも発見しやすい「防災避難着」にもなる点が評価されました。私自身もこうした商品を扱うこともあつて、自治体などの危機管理室などの関係者から、「防災士」の資格取得を勧められました。実際に取得してみると、大切な人を守るために、何もできない自分のままであつてはダメだと感じています。

その「防災士」の試験を受験したときに、どこかの学校の生徒さんを見かけました。聞いてみると、「防災士」の認定料の4分の3までを公的に補助してくれる仕組みがあるそうです。生徒さんでも「防災士」の資格取得で補助制度があるので、そこから、子どもたちの生命を預かる学校の先生方も、「防災士」などの資格が取得できるように、行政などが支援してほしいと思います。

私たちもこれまで、夜間などでも光をよく反射する雨具なども開発してきました。当初は交通安全につながるという目的でしたが、この「全身反射ポンチョ」が内閣府主催の「ぼうさいこくたい」の審査に合格し、2021年には一般社団法人災害防止研究所などによる「防災

できないことがあります。ですから学校などの防災教育でも、「こういう場合はどうすればよいか」など、具体的な場面に即して、みんなで意見を言い合つたり、特定のテーマで深掘りをしたりするような授業などが必要になつてくるのではないか

災害への対応は、状況に応じて異なるので、情報を読み取って、どういう災害が想定されるのか、どのような行動をとることで危険性が少なくなるか、などについて想像力を働かせる経験が大切です。こうした経験をしていないと、実際の災害などに出会った場合に、とつさに行動が取れないと思います。さまざまなケースを想定して、その場合はどうするべきか、日頃から「考えをめぐらす」という体験を積み重ねておくことが、実際の災害時にも役立つと思います。

今年3月、大阪市西区に防災の情報発信拠点として「防災Gallery Osaka」を開設しました。防災関係の民間企業が協力し、「防災のリアル」を学んだり、体験できたりする場ですので、学校関係者にも活用していただきたいです。